

令和5年度稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】 令和6年2月28日（火）午後2時～午後4時

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	榊原 仁	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委 員	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	阿部一洋	稲沢商工会議所事務局長
	小澤康彦	祖父江町商工会事務局長
	木下正章	名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部地域連携部ツーリズム担当課長
	岩田 毅	愛知西農業協同組合常務理事
	馬場浩彰	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
	大参孝彰	愛知県観光コンベンション局観光振興課長
	石川由香	公募市民

【事務局】	足立和繁	稲沢市経済環境部長
	内藤邦将	稲沢市経済環境部商工観光課長
	加藤敦史	稲沢市経済環境部商工観光課主幹
	梶浦英雄	稲沢市経済環境部商工観光課主査
	酒井仁志	稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長
	櫻木 彰	稲沢市観光協会事務局次長
	川村英二	稲沢市観光協会事務局主幹
	石井好美	稲沢市観光協会事務局

【傍聴者】 1名

【会議次第】

- 1 委嘱状交付
- 2 市あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 正副委員長の選出
- 5 協議事項
 - （1）稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
 - （2）次年度の取組について
- 6 その他

【会議の概要】

1 委嘱状交付

2 市あいさつ

[市経済環境部長]

本日はお忙しい中、稲沢市観光基本計画推進委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、このたびは本委員会の委員就任をお願いしましたところ、快くお引き受けいただき、改めてお礼を申し上げます。

本委員会は、平成30年3月に策定し、昨年度には改訂を行いました「稲沢市観光まちづくりビジョン」に基づく取り組みを実行的かつ効果的に推進していくため、計画の進行管理と、稲沢市の観光まちづくりの推進に向けた助言・提言を担う組織として設置されたものです。本日付けで皆様に委員を委嘱させていただきました。今後2年間の任期となりますので、よろしくお願いいたします。

さて、令和5年度を振り返りますと、新型コロナウイルスの位置付けが5類に改められ、アフターコロナへの動きを本格化させた年でありました。地域の社会経済活動への影響が残る中、稲沢市では経済支援策として、昨年11月から今月末までを使用期間とするデジタル商品券「いなPAY」を発行しました。初めてのデジタル商品券事業ということで、様々なご意見をいただきながら、市民と事業者、双方への支援を行ってきたところです。

一方、観光面においても、コロナ禍のために中止や縮小開催が続いてきた各種イベントが、通常規模での開催となり、観光協会を中心に来場者の受け入れに努めてまいりました。昨年は市制施行65周年を記念した「おかげさまで65周年感謝祭」を開催し、メインイベントの稲沢カーフェスティバルを中心に多くの来場者をお迎えして、盛況のうちに終えることができました。

引き続き稲沢市観光まちづくりビジョンの推進に取り組んでまいりたいと考えますので、委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚の無いご意見、ご提案をいただきますようお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 自己紹介

出席委員及び事務局による自己紹介

4 正副委員長の選出

委員長に大澤委員、副委員長に榊原委員を選出

5 協議事項

- (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
- (2) 次年度の取組について

[事務局]

資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）後期計画 アクションプラン進捗状況」に基づき説明

【質疑応答及び各委員からの取り組みに対する意見】

[委員①]

商工会議所では、令和4年度に新商品としてほうれんそうを取り入れた「いなっピーグリーンカレー」の商品化を検討した。最終的には商品化まで至らなかったが、取り組みとして紹介させていただく。

また、稲沢市は「みどりのまち」「植木のまち」と考えており、現在、軽トラックに植木・苗木等の商品を載せて持ち寄り販売を行う「みどりの軽トラ市」事業を検討している。この取り組みは、稲沢まつりなどに参加する事業者からの「手間がかかる割には売上があまりあがらず、費用対効果が見合わない」といった声への対応として考えている。

[委員②]

昨年11月4日に開催された「稲沢カレーフェスティバル」は大変盛況だった。午前12時頃に来場したところ、2・3種類の商品を買うことができたが、完売の店舗も多く見受けられた。また、大人向けのカレーが多かったように感じた。子ども連れでの来場が多いと思うので、子ども向けの種類が増えると良いと思う。

[事務局]

イベントのカレーメニューは、各参加店舗がご当地グルメとして開発したものを販売した。参加店舗にとっては自身のビジネスであるため、事務局から参加店舗に対して、どういった商品を開発・販売するかを誘導することは難しい。いただいた意見は、今後、店舗からメニュー開発に関する相談があった際に、子どものことも意識して対応するよう努めたい。

[委員③]

ご当地グルメは、イベント開催や参加店舗数などに驚いた。近隣の一宮市にも全国的なカレーチェーンの本社があるので、連携を検討されても良いのではないかな。

また、観光まちづくりラボの取り組みは、もっと広げていく動きが大事だと思う。

[委員長]

ラボ参加者の取り組みなどの中で、観光商品化の動きはあるか？

[事務局（観光協会）]

商品化は、ほとんどできていない。最大の理由は、観光を本業として取り組んでいる人が少ないことが挙げられる。木曽川のSUP体験やフルーツ園の果物もぎ取り体験は、ビジネスとして取り組んでいるが、他の事業者は、こちらから働きかけを行って、特定の設定日に対応してもら

っている状況。実施日が不定期だと旅行代理店側は、商品として販売しにくい。

[委員④]

治郎丸ほうれんそうは、生育に適した環境条件が厳しく、害虫が発生しやすいといったことから栽培が難しく、伝統野菜の取り扱いの難しさが現れている。稲沢市で代表的な作物というとギンナンが中心になると思う。私もカレーの商品化を評価したい。

[委員⑤]

稲沢市には、サリオパーク祖父江があり、河岸砂丘の公園は全国的にも3カ所しかなく珍しい。砂丘を活用しながら国営公園を含めた施設のPRを行い、稲沢市とは、秋のサンドフェスタやシクロクロス大会の開催において協力していきたい。

[委員⑥]

あいち観光戦略を策定する中で課題と感ずるのは、愛知にしかないものや愛知がナンバー1であるものを、県民自身が認識していなかったり、自慢に感じていなかったりしていること。いなざわ観光まちづくりラボの取り組みは、市民が市の魅力をしっかりと理解して、PRしているように感じる。また、行政は分野ごとに縦割りになりがちだが、稲沢市は、農業分野が自然と関わっているように見え、横の連携が取れているのではないかと思う。県の取り組みは、プラットフォーム事業に力を入れたいと考えており、事業者を集約して対外的に情報発信する場を作っていきたい。

[委員⑦]

市内のイベント等に参加して思うことは、若い世代の比率がまだ少ない。もっと多くの若い世代に足を運んでもらえるよう、SNS等での発信に力をいれると良いと思う。

[委員⑧]

ご当地グルメの取り組みは、ストーリーとして「なぜ稲沢でカレーなのか？」の部分が弱いと感じる。もっと発信する工夫をしても良いと思う。また、カレーを「地元のイベント」または「他の地域から人を呼び込むためのイベント」のどちらにするのか、誘客のターゲットを絞って活動することで効果的になるのではないか。

最近の観光でのトレンドは、「アドベンチャーツーリズム」があり、この分野では観光客と地元事業者との交流が重要。観光まちづくりラボのメンバーを活用して取り組みを進めてはどうか。

[事務局（観光協会）]

ご当地グルメのストーリーは、市内に即席カレーの元祖といえる企業があることを起点に、秋に色づくイチョウの色のイメージと絡めてPRを行っている。即席カレーの企業がカレーメニューを試作する店舗にルウの提供をしてくれたが、市内企業のカレー粉は、参加店舗にもメニューで使用している店舗・使用していない店舗が混在している状況。使用するカレー粉を市内企業の

製品にすることをご当地グルメのルールとすることはできないので、1社に絞ったPRをできないことは悩ましく感じている。逆に、メニューにおける多様性をご当地グルメの特徴としてPRする方向で進めていければと思う。

[委員⑨]

サリオパーク祖父江は、マニアの中では有名なスポットになっていると聞いたことがある。市都市整備課や県の河川・公園担当部局等とよく連携のうえ、観光誘客の取り組みを進めていただきたい。サリオパーク祖父江の活用によって、先ほどの委員の発言にもあった「アドベンチャーツーリズム」の取り組みが進むことにもなると思う。

ご当地グルメの「華麗なるまち」というキャッチコピーは、上手く名付けられていると思う。作りこみは難しい点もあるかと思うが、この優れたキャッチコピーを活かして、今後も取り組みを進めてほしい。そのためには、いかに市内外にPRを行っていくか、広報が大事になると思うので、SNSの発信も含め、意識して活動してほしい。近隣自治体を巻き込んだ取り組みも検討していただき、愛知県の「旅ろっ！愛知」事業や愛知県観光協会も活用して積極的なPRをしてほしい。

[事務局（観光協会）]

事業のPRを行うためのチラシの配布場所は、特に市外向けの設置場所が少ない状況にあるため、愛知県や県観光協会の協力で設置できる場所があれば紹介してほしい。

また、季節ごとに開催している梅まつり、あじさいまつり、イチョウ黄葉まつりなどでは、駐車場の受入状況を見ると、公共交通機関による来場以外では上限に近い。まつり以外の時期に稲沢市に来ていただけるような仕組みづくりが必要。そのために、ご当地グルメを開発し、平常時にも稲沢市に来てもらうための取り組みを稲沢市と観光協会で行っている。

[委員長]

委員からの意見は出尽くしたようなので、事務局は、本委員会での意見を踏まえ、観光まちづくりビジョンの推進に努めていただくようお願いしたい。

各委員から肯定的な意見が出ていたように、よくここまで取り組みを進めてこられたと感じている。これまでの取り組みに敬意を表するとともに、観光まちづくりへの取り組みには限りがないので、引き続きしっかりと取り組んでいただくことをお願いしたい。

6 その他

[事務局（観光協会）]

稲沢市観光協会から、第18回いなざわ梅まつり（3月2日・3日／愛知県植木センター）、にっぽん城まつり（3月2日・3日／吹上ホール）について紹介。

[事務局]

本日付で委嘱した委員の任期は2年間で令和8年2月末までとなる。次回開催は1年後の

令和7年2月頃を予定しているので、開催の際には再度参集をお願いしたい。年度替わりの人事異動などで交代となる方には、後任の方への引継ぎと事務局への連絡をお願いできればと思う。

以上